



津波防災サイン デザインスキーム ver.1

2005.09 ケーススタディー
大阪府港湾局 泉大津津波啓発(注意)看板

0. 背景

この提案書は、大阪府港湾局よりの緊急の要請を機会ととらえ、防災ピクトグラム研究会の自主的研究成果としたものである。
大阪府港湾局では、平成16年度以降津波に対する啓発活動の1つとして、以下の要件で津波啓発(注意)看板の作成・設置、デザインの検討を行っていた。

- (1) 看板の基本コンセプト
看板は、防潮堤の外側の臨海部利用者(作業員、関係者、レジャー施設利用者等)を対象に津波に対する注意を呼びかけるものであり、避難所や避難経路の情報は記載しないこととする。これは、原則として避難関連の整備・対策は市・町が実施する事となっており、現状では臨海部におけるそうした防災対策はほとんど未着手であるため、記載できないと言う現状を勘案し判断したものである。
- (2) 看板の種類・サイズと記載内容
看板は、用途に応じて小看板と大看板の二種類を使い分け、必要箇所に設置する。
- 小看板
- ・ A2縦(594×420cm)程度 / 設置箇所数: 多数 / 電柱や防潮堤、門扉、上屋等に設置(基礎工事不要)
 - ・ 津波に対する注意を広くしつこく呼びかける
 - ・ 多くの情報は載せず、「津浪によって浸水する可能性がある」と、「地震の後にはすぐ避難すべき」ことを明確に伝えるものにする
- 大看板
- ・ A0横(1188×841cm)程度 / 設置箇所数: 少数(最終的に南大阪公共埠頭(フェリー乗り場)、海水浴場等、10カ所程度)
 - ・ 津波に対する注意の呼びかけと津波に対する知識の広報
 - ・ 小看板の記載内容にくわえ、浸水予想図、一般的な津波の知識、心得、大阪府の取り組み等を簡潔に盛り込む
- (3) 設置方針: 用途に応じた2種類の看板の使い分け
平成16年度 小看板と大看板のデザイン検討 / 小看板を親水緑地等、港湾局管理の堤外地の公共施設、数カ所に設置
平成17年度 随時小看板の設置箇所を増やす / 大看板の設置検討(ハザードマップ配布等に合わせ、できるだけ設置)

1. 目的(目指すもの)

以上を受け、防災ピクトグラム研究会では、次の3つの津波啓発(注意)看板-小看板の標示板面のデザインを検討・提案し、決定案をもとに、小看板はすでに数カ所の設置がなされた。

本提案書は、昨年度の研究会活動を拡大して、本年度引き続き検討・設置が行われている津波啓発(注意)看板-大看板のデザイン案および大小看板の効果的な設置の考え方を示し、泉大津を中心とした南大阪地域における津波啓発(注意)看板のデザインのあり方をまとめ、デザインスキームとして提案するものである。

デザイン案の検討

- A案: 注意・警告 / 学習・啓発 = 色面分割
B案: 注意・警告 / 学習・啓発 = 1 / 1
D案: 注意・警告 / 学習・啓発 = ラインで分割

▶ デザインの方向性として
C案を選定

決定案



大阪府港湾局検討案



A案



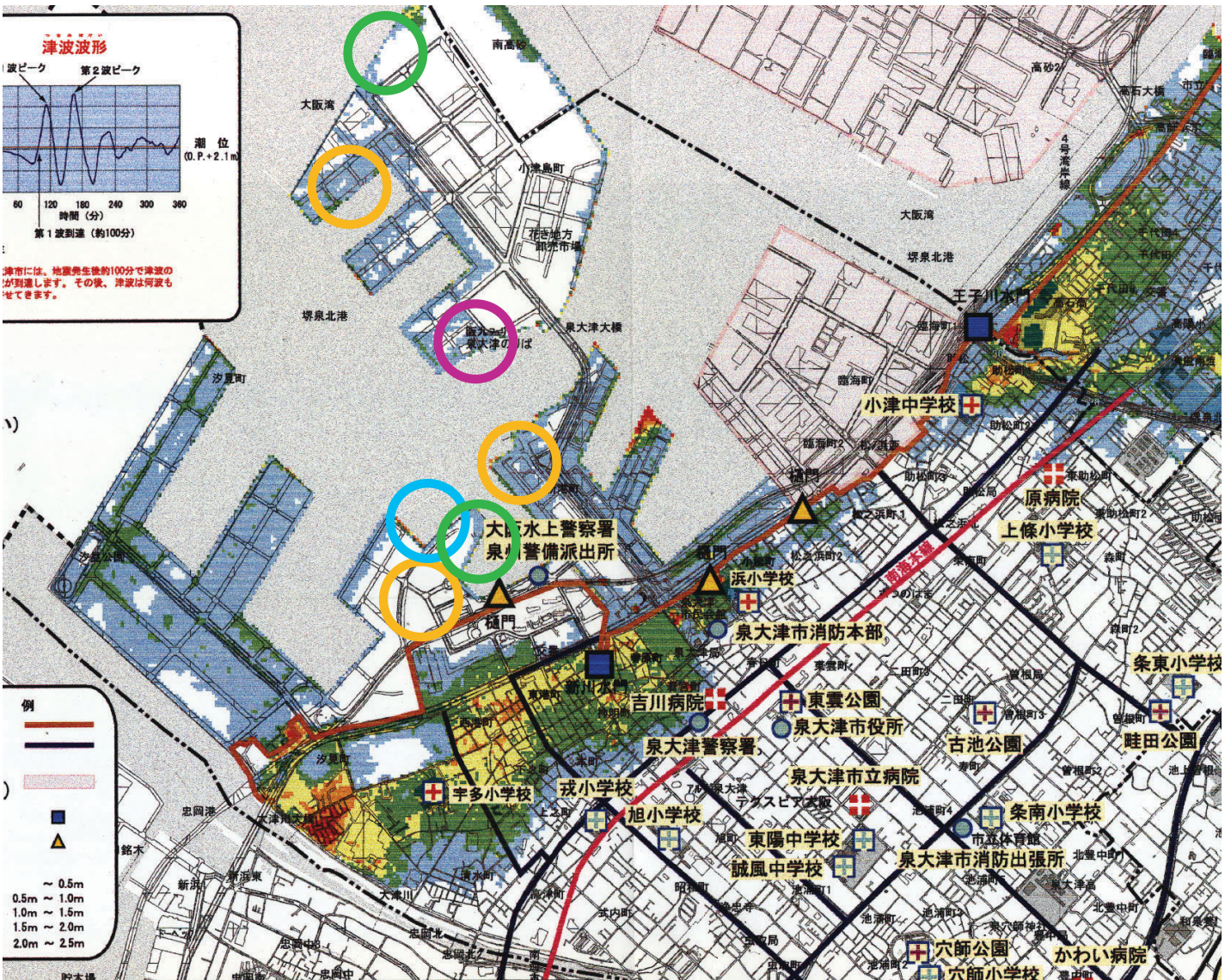
B案




C案





1.空間性質分類 現地調査－港湾局周辺環境





環境要素

- 

親水空間
公園・釣り
- 

事業所基地
(ベース)
- 

交通要所
(フェリー)
- 

マリーナ
(ハーバー)
- 

防潮堤ライン



泉大津地区においては、このエリアの環境的特徴としては、人工島エリアと陸エリアによりなり、防災情報の提供において要素の
ことなる2つのエリアが存在する。
海辺の公園や釣り場、ヨットハーバーを中心とした親水空間 / 港湾をベースとした事業所空間 / また交通拠点としてフェリーター
ミナルも存在することから、地震・津波発生時において、地元地域以外の不特定多数な一般市民の存在・空間利用が伺える。

2.空間性質分類より、それぞれの空間ごとに動線の結節点を探す



親水空間及びヨットハーバー周辺



設置拠点 = 「結節点」

大看板設置における効果的でふさわしい環境として、人の動線の「結節点」があげられる。

現地踏査より、親水空間における動線の結節点は、来場者用駐車場から公園までのアクセス動線として「公園出入口」、公園内唯一の「トイレ周辺」が人が集まりやすい場・大看板が目につきやすい場所=「結節点」としてあげられた。フェリーターミナルにおいては、誰もが利用する空間として、発券場所周辺、情報コーナー等が「結節点」としてあげられた。



右) 親水空間での大看板設置イメージ






3. 啓発看板における情報提供要素の整理

島内での安全性の確保を目的とした情報提供の必要性 / 各表示板の組み合わせ・連動による効果

導線の結節点での効果的な設置

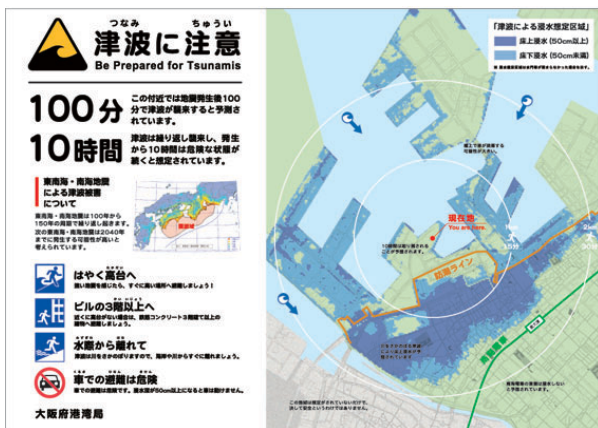
- 1.市民の親水空間 (出入口 / 駐車場 / トイレ周辺)
- 2.事業所ベース (エントランス周辺及び構内)
- 3.フェリーターミナルベース (屋内発券所周辺)

まず、この地域の津波は？ → どれぐらいの表示板、予算は？ → どんな内容でどこに？ → どんな場がある？ → 公共空間と私有空間 → 移動空間と滞留空間 → 空間特性格

地域特性	基本ピクト	表示タイプ	親水エリア	業務エリア	ターミナルエリア	移動エリア (道路)	public レジャー施設エリア	private レジャー施設エリア	ショップエリア
泉大津地域の津波は高い波というより... 地域の津波到達時間 1.5h ~ 2.0h	津波啓発マーク  注意・警告 	津波にかんする知識を得る表示板 A: 大看板	訴求ポイント ・海抜表示 ・位置を知る (地図) ・想定津波浸水区域を知る 設置場所 結節点-1 広場導入部 結節点-2 公衆トイレ	結節点-1 各会社入り口 結節点-2 レストラン	結節点-1 発券場 結節点-1 駐車場	結節点-1 発券場 結節点-1 駐車場			
	学習・啓発  誘導 	行動を誘発する表示板 B: 小看板	訴求ポイント 設置場所	水際 	とにかく高いところへ！ 慌てない？	慌てない？	慌てない？	車のための表示は？	私有地結節点？

版面デザイン提案

A 大看板 (平成17年度提案)



A0サイズ
平成17年度設置予定

B 小看板 (16年度完了)



A2サイズ
既に数枚設置